

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期山形市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

山形市

3 地域再生計画の区域

山形市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の2020年（令和2年）における人口は、247,590人であり、2005年（平成17年）の256,012人をピークに緩やかに減少している。住民基本台帳によると2024年（令和6年）12月の人口は236,164人となっている。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2050年（令和32年）には198,986人まで減少するとされている。

本市の人口構造をみると、年少人口（0～14歳）は1980年（昭和55年）の52,460人をピークにそれ以降減少している一方、老年人口（65歳以上）は1965年（昭和40年）の12,009人から一貫して増加している。1995年（平成7年）には年少人口41,110人、老年人口42,627人となり、年少人口と老年人口の逆転が始まり、2020年（令和2年）には、年少人口29,120人、老年人口72,341人である。生産年齢人口（15～64歳）のピークは1995年（平成7年）の170,470人で、それ以降減少を続け、2020年（令和2年）には、140,796人まで減少している。この生産年齢人口のピークが順次老年期に入り、また平均寿命が延びたことから、老年人口は現在も増加を続けている。65歳以上の高齢者を支える生産年齢人口は、1980（昭和55）年には7.1人で1人を支えていたのに対し、2020年（令和2年）には1.9人で1人となり、2050（令和32）年には1.3人で1人を支える見込みである。このように、更なる高齢化が進展することが見込まれる。

自然動態をみると、昭和期は、1965年（昭和40年）の出生数は3,214人、死亡

数は1,432人で、その後出生数及び死亡数それぞれ横ばいで推移しつつ自然増加が続く状況であったが、平成期に入ると出生数が減少傾向となる一方で死亡数が増加傾向となっている。その後、2006年（平成18年）に出生数2,188人に対し死亡数2,319人となり、初めて自然減少に転じ、それ以降は出生数と死亡数の差が年々拡大し、2022年（令和4年）には出生1,603人に対し死亡3,128人で、1,525人の自然減少である。

社会動態をみると、特に若者世代の転出が多く、これまでの国勢調査では、男性の15歳から24歳で一貫して転出超過となっているほか、20歳から29歳では転入超過の傾向が弱まっており、1990年（平成2年）から1995年（平成7年）にかけては660人の転入超過だったのに対し、2015年（平成27年）から2020年（令和2年）にかけては228人の転出超過となっている。女性では20歳から29歳の転出超過の傾向が強まっており、1990年（平成2年）から1995年（平成7年）にかけては291人の転出超過だったのに対し、2015年（平成27年）から2020年（令和2年）にかけては1,069人の転出超過である。直近10年間の平均では、特に女性の20歳から24歳で207人の大きな転出超過が見られ、将来母親世代となる人口の大幅な減少傾向が続いていることから、出生数の減少が続くことが見込まれており、社会減と自然減が共に進む見通しであることが人口減少の要因と考えられる。

人口減少が進行することに伴って、一定の人口規模の上に成り立っている小売や飲食、病院等の生活関連サービスの縮小や空き家、空き店舗、耕作放棄地等の増加、町内会や自治会といった住民組織の担い手が不足することによる地域コミュニティの機能の低下等の影響が想定される。

これらの課題に対応するため、「チャレンジする山形市政」を堅持しながら、出会いから結婚、妊娠、出産、子育てに至るまでの切れ目のない支援による結婚や子を持つことの希望を叶えられる環境づくり、魅力ある雇用の創出、若者や女性が働きやすい職場環境づくり、ジェンダーギャップの解消、積極的なシティプロモーションによる移住定着の促進、関係人口・交流人口の創出を図るなどの「自然減対策」と「社会減対策」の両輪の取組を進め、人口減少を抑制するとともに、本市が目指す将来都市像である「健康医療先進都市」及び「文化創造都市」の確立に向けて、以下の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- ・基本目標 1 「まち」・「ひと」・「しごと」公共交通が全てを繋ぐまち
- ・基本目標 2 誰もが安全に安心して、心地よく快適に住み続けられるまち
- ・基本目標 3 歩くほど幸せになるまち
- ・基本目標 4 防災はみんなの力、安全はみんなの笑顔、安全・安心の絆でつながるまち
- ・基本目標 5 市民や地域のコミュニティが活発なまち
- ・基本目標 6 一人ひとりが限りある資源を大切にする循環型の自然豊かな美しいまち
- ・基本目標 7 豊かな学びや体験を得て、質の高い教育を受けることのできるまち
- ・基本目標 8 こどもの笑顔が未来をつくる、子育てが楽しいまち
- ・基本目標 9 誰もが健康で生きがいと役割を持って、地域の中でいきいきと暮らすまち
- ・基本目標 10 安心して医療が受けられる暮らしやすいまち
- ・基本目標 11 困っている人、悩んでいる人を誰もほっとかないホッとするまち
HOTなまち
- ・基本目標 12 身近にあるクリエイティブに出会えるまち
- ・基本目標 13 スポーツ熱の高い健康で活気あふれるまち
- ・基本目標 14 産業の振興と働きやすさがつなぐ、未来をひらくまち
- ・基本目標 15 暮らしと観光がつながり、何度も訪れたくなる感動体験を生み出すまち
- ・基本目標 16 豊かな自然とおいしい食を未来につなぐ、みどりの循環するまち
- ・基本目標 17 性別に関わらず多様な人材が活躍し、多様な価値観が尊重されるまち
- ・基本目標 18 山形ブランドが確立し、高いブランド力で選ばれ続けるまち
- ・基本目標 19 発展計画を推進するための基盤づくり

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略の 基本目標
ア	公共交通の利用者数	11,145千人 (2023年度)	11,932千人	基本目標 1
イ	居住誘導区域（立地適正化計画）人口密度	52.9人/ha (2024年)	53.8人/ha	基本目標 2
	公示地価平均	70,433円/㎡ (2024年)	74,766円/㎡	
ウ	歩行者通行量	25,084人 (2024年度)	27,494人 (2029年度暫定)	基本目標 3
エ	適切な避難行動をとれる人の割合（＝マイタイムライン作成割合）	2025年度 調査実施予定	現状値を超える	基本目標 4
	避難行動要支援者（要介護3以上、障がい（児）者等）の個別避難計画作成割合	5.4% (2024年12月)	75.0%	
オ	社会活動（地域・文化・スポーツ・ボランティア活動）に参加している人の割合	2025年度 調査実施予定	現状値を超える	基本目標 5
カ	市内の温室効果ガス排出量	1,339千t-CO2 (2022年度暫定)	973千t-CO2 (2027年度暫定)	基本目標 6
	市民1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	540 g / 人・日 (2023年度)	537 g / 人・日	
キ	学校が楽しいと感じる児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）	小学校：82.5% 中学校：78.9% (2024年)	小学校：90.0% 中学校：90.0%	基本目標 7
	I C Tを活用して自分の学びを充実できると答えた児童生徒の割合（児童生徒の実態に係わる調査）	86.5% (2023年)	100%	
	地域学校協働活動への地域住民の参画人数	6,121人 (2023年度)	9,000人	
ク	4か月児健康診査で「この地域で、今後も子育てをしたい」と思う人の割合	96.9% (2023年度)	97.0%	基本目標 8
	「今の自分が好きだ」と思うこども（中高生）の割合（自己肯定感の高さ）	60.5% (2024年)	70.0%	
	合計特殊出生率	1.16 (2023年)	現状値を上回る	
ケ	年に1回以上、歯科健診を受けている人の割合	2025年度 調査実施予定	現状値を超える	基本目標 9
	健康寿命	男性 80.70歳	男性 81.48歳	

		女性 85.07歳 (2022)	女性 85.12歳 (2027年)	
	健康ポイント事業SUKSK 累計登録者数	13,761人 (2023年度)	29,000人	
コ	年に1回以上、健康診断を受けている人の割合	2025年度 調査実施予定	現状値を超える	基本目標10
	胃がんの標準化死亡比	男性 104.1 女性 130.0 (2018～2022年)	男女ともに 100.0以下	
サ	「我が事・丸ごと地域づくり 推進事業」における実施拠点数	23件 (2025年2月)	35件	基本目標11
	要介護認定を受けずに健康に 生活している高齢者の割合	83.2% (2023年9月)	83.2%	
シ	月に1回以上、歴史・芸術・伝 統芸能・音楽・映画などの文 化活動に参加・鑑賞した人の 割合	2025年度 調査実施予定	現状値を超える	基本目標12
	Q1プロジェクトがきっかけ で生まれたアイデアや商品、 サービスの数	35件 (2023年度)	40件	
ス	週1回以上、スポーツをした 人の割合	58.3% (2023年)	65.0%	基本目標13
セ	今の職場が働きやすいと思う 人の割合	2025年度 調査実施予定	現状値を超える	基本目標14
	市内GDP	1,030,855百万 円(2021年度)	現状値を超える	
	製造業労働生産性1人あたり の付加価値額	937万円 (2021年度)	1,078万円 (2026年度)	
ソ	自分のまちのおすすめを友達 や知り合いに紹介(SNS発信含 む)したことがある人の割合	2025年度 調査実施予定	現状値を超える	基本目標15
	市内のホテル・旅館等への宿 泊者数	90万人 (2023年度)	92万人	
	観光消費額	825億円 (2023年度)	876億円	
タ	新規就農者数	28人 (2023年度)	44人	基本目標16
	農業所得者1人あたりの所得 金額	2,901千円 (2023年度)	3,100千円	
	担い手等の農業者への農地集 積割合	70% (2023年度)	80%	
チ	20代女性の県外転出数 (転入者-転出者)	▲464人 (2023年)	▲314人	基本目標17
	市内事業所における女性管理 職の割合(課長相当職以上)	12.6% (2019年)	30.0%	

	市における女性管理職の割合	21.7% (2024年度)	30.0%	
ツ	関係人口数	160,000人 (2024年度)	200,000人	基本目標18
	移住者数（移住相談等を経由）	125人 (2023年度)	250人	
	転入者と転出者の差	▲1,098人 (2023年)	現状値を 超えない	
テ	市民の声が活かされていると思う市民の割合	2025年度 調査実施予定	現状値を超える	基本目標19
	行政サービスのデジタル化により、利便性が向上したと思う市民の割合	2025年度 調査実施予定	現状値を超える	
	実質公債費比率	7.8% (2023年度決算 3カ年平均値)	地方債同意等基 準18%未満	
	将来負担比率	92.5% (2023年度決算)	早期健全化基準 350%未満	
	山形市職員採用試験（上級行政）採用倍率	4.3倍 (2024年度)	4.9倍	

5 地域再生を図るために行う事業

5－1 全体の概要

5－2のとおり。

5－2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第2期山形市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 「まち」・「ひと」・「しごと」公共交通が全てを繋ぐまちづくり事業

イ 誰もが安全に安心して、心地よく快適に住み続けられるまちづくり事業

ウ 歩くほど幸せになるまちづくり事業

エ 防災はみんなの力、安全はみんなの笑顔、安全・安心の絆でつながるまちづくり事業

オ 市民や地域のコミュニティが活発なまちづくり事業

カ 一人ひとりが限りある資源を大切にする循環型の自然豊かな美しいまちづくり事業

キ 豊かな学びや体験を得て、質の高い教育を受けることのできるまちづくり事業

ク こどもの笑顔が未来をつくる、子育てが楽しいまちづくり事業

ケ 誰もが健康で生きがいと役割を持って、地域の中でいきいきと暮らすまちづくり事業

コ 安心して医療が受けられる暮らしやすいまちづくり事業

サ 困っている人、悩んでいる人を誰もほっとかないホッとするまちH O Tなまちづくり事業

シ 身近にあるクリエイティブに出会えるまちづくり事業

ス スポーツ熱の高い健康で活気あふれるまちづくり事業

セ 産業の振興と働きやすさがつなぐ、未来をひらくまちづくり事業

ソ 暮らしと観光がつながり、何度も訪れたいくなる感動体験を生み出すまちづくり事業

タ 豊かな自然とおいしい食を未来につなぐ、みどりの循環するまちづくり事業

チ 性別に関わらず多様な人材が活躍し、多様な価値観が尊重されるまちづくり事業

ツ 山形ブランドが確立し、高いブランド力で選ばれ続けるまちづくり事業

テ 発展計画を推進するための基盤づくり事業

② 事業の内容

ア 「まち」・「ひと」・「しごと」公共交通が全てを繋ぐまちづくり事業
公共交通の整備、持続可能な公共交通ネットワークの構築又は広域公共交通の充実に資する事業

【具体的な事業】

- ・公共交通運行事業
- ・公共交通 MaaS 運用事業 等

イ 誰もが安全に安心して、心地よく快適に住み続けられるまちづくり事業
魅力ある都市空間づくり、安全性と利便性を高める道路網の整備、持続

可能な公園の形成、居住環境の整備又は水道・下水道事業の安定経営に資する事業

【具体的な事業】

- ・ 景観重点地区景観形成推進事業
- ・ 住宅リフォーム総合支援事業 等

ウ 歩くほど幸せになるまちづくり事業

まちの賑わい向上、魅力あるまちなみの整備又は居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりに資する事業

【具体的な事業】

- ・ 中心商店街活性化推進事業
- ・ 中心市街地歩行者空間創出等事業 等

エ 防災はみんなの力、安全はみんなの笑顔、安全・安心の絆でつながるまちづくり事業

災害に強いまちづくり、多様なニーズに対応した避難所・避難場所の整備又は自主防災組織の組織率向上及び活動充実に向けた支援に資する事業

【具体的な事業】

- ・ 避難所・避難場所環境整備事業
- ・ 自主防災組織育成事業 等

オ 市民や地域のコミュニティが活発なまちづくり事業

地域コミュニティの推進又は市民活動への支援に資する事業

【具体的な事業】

- ・ いきいき地域づくり支援事業
- ・ 市民活動活性化事業 等

カ 一人ひとりが限りある資源を大切にする循環型の自然豊かな美しいまちづくり事業

脱炭素社会の推進、循環型社会の推進、自然との共生又はうるおいのあるまちづくりの推進に資する事業

【具体的な事業】

- ・ 「デコ活」 普及・啓発事業
- ・ 資源循環推進事業 等

キ 豊かな学びや体験を得て、質の高い教育を受けることのできるまちづくり事業

安全・安心な教育環境の整備、魅力ある学校づくりの推進、学校・家庭・地域のネットワーク構築又は多様な学びのニーズへの対応に資する事業

【具体的な事業】

- ・ 学校施設環境整備事業
- ・ 少子化に対応した活力ある学校づくり事業 等

ク こどもの笑顔が未来をつくる、子育てが楽しいまちづくり事業

結婚・妊娠・出産・育児までの切れ目のない支援、安心して子育てできる環境づくり又は地域社会全体でこどもと子育て世帯を支援する環境づくりに資する事業

【具体的な事業】

- ・ やまがた de 愛支援事業
- ・ こどもまんなか啓発事業 等

ケ 誰もが健康で生きがいと役割を持って、地域の中でいきいきと暮らすまちづくり事業

S U K S K生活の推進による健康寿命の延伸、エビデンスに基づく生活習慣病の予防促進、女性の健康支援、心の健康の保持・増進又は生活衛生の確保に資する事業

【具体的な事業】

- ・ S U K S K（スクスク）生活推進事業
- ・ こころの健康推進事業 等

コ 安心して医療が受けられる暮らしやすいまちづくり事業

医療体制の充実、感染症の予防対策の充実、救急体制の充実・強化又は市立病院済生館の新病院整備に資する事業

【具体的な事業】

- ・ がん検診等推進事業
- ・ 24時間健康・医療相談サービス事業 等

サ 困っている人、悩んでいる人を誰もほっとかないホッとするまちHOT

なまちづくり事業

地域福祉の充実、介護福祉人材確保・定着に向けた総合的取組、障がい福祉の充実、高齢者福祉の充実又は住環境の充実に資する事業

【具体的な事業】

- ・我が事・丸ごと地域づくり推進事業
- ・地域生活支援事業 等

シ 身近にあるクリエイティブに出会えるまちづくり事業

創造的活動の機会の充実・担い手の育成と支援、文化財の効果的な保存・活用又は文化施設の整備に資する事業

【具体的な事業】

- ・やまがた秋の芸術祭・やまがた冬の芸術祭事業
- ・市民会館整備運営事業 等

ス スポーツ熱の高い健康で活気あふれるまちづくり事業

身近でスポーツに親しむことができる環境整備、地域交流の拡大と活性化又は多様なスポーツを通じた健康増進への対応に資する事業

【具体的な事業】

- ・健康増進ウォーキングロード及びサイクリングロード整備事業
- ・サマースキージャンプ大会開催事業 等

セ 産業の振興と働きやすさがつなぐ、未来をひらくまちづくり事業

産業の集積、地域企業の稼ぐ力の向上又は若者の活躍と人材の確保・育成に資する事業

【具体的な事業】

- ・山形市売上増進支援センター(Y-biz)運営事業
- ・労働力確保・UIJ ターン就職応援事業 等

ソ 暮らしと観光がつながり、何度も訪れたくなる感動体験を生み出すまちづくり事業

多様なニーズに対応した観光振興、観光地の魅力と利便性向上に向けた基盤整備又は高付加価値旅行者の誘客推進に資する事業

【具体的な事業】

- ・旧千歳館エリア・リノベーション事業

- ・日本一の観光案内推進事業 等

タ 豊かな自然とおいしい食を未来につなぐ、みどりの循環するまちづくり事業

マーケットに対応した戦略的な農林業の振興、多様な担い手の育成・確保又は農林業生産基盤の整備に資する事業

【具体的な事業】

- ・市産材利用拡大促進事業
- ・五堰環境保全事業 等

チ 性別に関わらず多様な人材が活躍し、多様な価値観が尊重されるまちづくり事業

男女共同参画の推進、女性活躍の推進又は誰もが安心して暮らせるまちづくりに資する事業

【具体的な事業】

- ・男女共同参画推進事業
- ・公民連携による女性人材育成事業 等

ツ 山形ブランドが確立し、高いブランド力で選ばれ続けるまちづくり事業

山形ブランドの発信と創造、移住・定住・関係人口の拡大又は国際化への対応に資する事業

【具体的な事業】

- ・山形ブランド情報発信事業
- ・移住プロモーション推進事業 等

テ 発展計画を推進するための基盤づくり事業

人材の育成・確保、行政サービスの向上、効果的・効率的な行政経営又は持続的発展が可能な財政運営に資する事業

【具体的な事業】

- ・スマートシティ推進事業
- ・ファシリティマネジメント手法活用事業 等

※ なお、詳細は山形市発展計画 2030 のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4 の【数値目標】及び具体的な事業ごとに個別に設定した指標

④ 寄附の金額の目安

5,000,000 千円（2025 年度～2029 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度 7 月頃、外部有識者による効果検証を実施し、次年度の事業実施方針を検討する。検証結果は市公式ホームページで公表する。

⑥ 事業実施期間

2025 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

2025 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日まで